

住化・住武相談室だより

第4号 4月10日

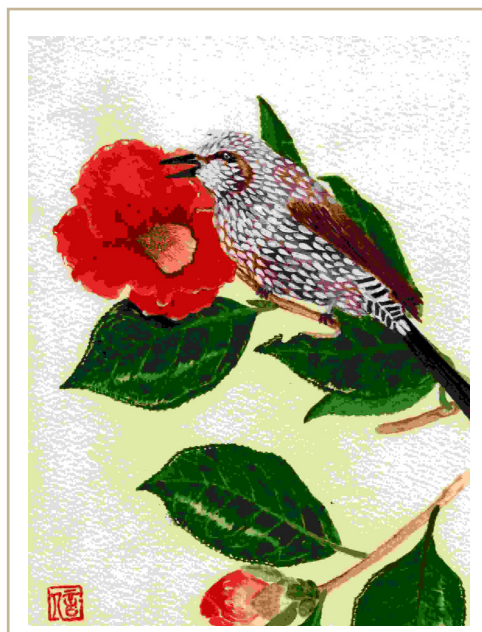
発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0120-677-088

発行責任者 古津 昇

目次

JAS制度と特別栽培農産物(その2)・・・	P.1,2
IPMの現状と今後(シリーズ②)・・・	P.3
雑草よもやま話(4)・・・	P.4
新農薬紹介「デラウスプリンスリンバー箱粒剤」	P.5
住友化学アグログループ会社紹介	
<住化タケダ園芸株>・・・	P.6
市場情報NO.2「カラーピーマン」・・・	P.7
知って得する防除の仕方・・・	P.8
今月の推進農薬「アピロイーグルフロアブル」	P.8,9
今月の相談内容から【畑作除草剤】	
「アスパラガス」「タマネギ」・・・	P.9,10
病虫害発生情報・・・	P.10,11
登録情報・・・	P.11
コラム・そば談義・・・	P.12
編集後記・・・	P.12



JAS制度と特別栽培農産物(その2)

国内での有機農業取り組み動向

1) 政策上の位置付け

有機農業の最終到達点は環境保全型農業や持続型農業でなく、全く別の「特別な農業」・「付加価値農業」として政策上位置付けられており、現在も変わっていない。

有機農業や環境保全型農業および持続型農業は、「有機JAS法」「環境関連法」「持続農業法」と複数の法律によって定められています。しかし、これらを一つに束ねて推進していこうという動きは今のところ見られていません。

2) 有機認定件数の推移と格付け実績

生産工程管理者の認定件数の推移を見ると、国内は伸び悩みの傾向にありますが、海

外では着実に増えています。同様の傾向は製造業者でも認められ、認定農家戸数の推移ではより顕著になっています。

海外の認定農家戸数は2003年10月には、国内のほぼ同じ水準に達しました。その後2004年1月末で一挙に国内の1.4倍に増え、JAS認定有機農産物の海外依存度が急激に増加しました。

*認定事業者に係わる**格付け実績は、米・緑茶・大豆加工品を除きほとんどの品目で海外での格付けの割合が高くなり、2001年と2002年現在では、生鮮野菜が50%、大豆で98%、冷凍食品、野菜

缶詰および乾麺類で90%以上が格付けされています。格付け数量の増加と共に海外で格付けされた割合は、今後さらに増えると考えられます。

3) 有機農産物の市場概況

「有機・特別栽培マーケット総覧2003」(IFOAMAジャパン, 2003)によると、現市場は「広報・情報伝達の欠如」と「有機農産物の明確さと特別栽培農産物の曖昧さ」の2点に集約されるといわれています。有機農産物は第三者認証の対象になったことで、一般流通経路においても扱いやすい商材となりましたが、有機JASに関する広報や情報伝達が不十分であることから、依然として「有機」と「特別栽培」、「無農薬栽培」が消費者に混同されています。しかし、供給能力の向上、広報の充実が一般流通で展開されれば、市場は大いに伸びるといえる見通しもあります。

国内生産体制については、現在取り組んでいる農家および団体では活発な生産活動が営まれています。生産数量がまだまだ少ないため供給に不安が残ります。また、食品加工メーカーでは、安定供給の懸念があり、加工品素材へのこだわりが消費者に受容されないため価格への転嫁が出来ないとされています。今後も現行体制では生産拡

大が非常に難しいことが予想されます。

< 語句説明 >

***)登録認定業者とは:**農家などの申請者が認定基準に適合しているかどうかの検査・判定を行います。その結果、認定を受けた事業者は、自らの責任で生産・製造した農産物等をJAS規格に基づいて検査し、これに適合していると判断したものに有機JASマークを付すことができます。また、これらの事業者は認定後も定期的に登録認定機関によるチェックを受けます。

****格付けとは:**JAS規格(日本農林規格)はJAS法に基づいて定められた飲食品や林産物などの製品の基準です。JAS規格を満たしていることが確認(格付)された製品にはJASマークを付けることができます。

< 恵泉女学園大学澤登様セミナー要約から >
(F・N)

特定JASマーク

特別な生産や製造方法、特色のある原材料(生産の方法)についてのJAS規格(特定JAS規格)を満たす食品に付されます。



IPMの現状と今後 (シリーズ②)

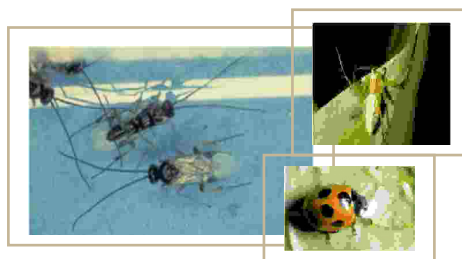
いま、なぜIPMか

かつて、化学農薬がなかった時代の防除方法とはどのようなものだったのでしょうか。

すぐに思い浮かぶのは、田んぼや畑地の草むしり(物理的防除)でしょうか。また、教科書にも載っている有名な例ですが、中国では果樹園にアリ(ツムギアリの巣)を放し害虫を防除(生物的防除)する方法があったそうです。さらに日本の水田では、ウンカなどを防除するために、田に鯨油を入れそこに害虫類を叩き落とす方法(物理的防除)がありました。おそらく昔の農家の人達は、化学防除法以外のあらゆる防除方法を駆使して害虫(pest)や雑草と戦っていたのだと思います。

このような中で化学的防除法(いわゆる農薬散布による防除)の登場は、その効果もさることながら、害虫防除という大変な重労働からの解放という意味でも画期的なものでした。若い人達はご存知ないかと思いますが、現在ほど化学農薬が普及していなかった時代では、農家に腰が曲がったお年寄りが多く見られました。このような状況の中で、化学的防除が急速に普及していったのは、食料増産の時代とも重なって、ごく自然の成り行きだったと思われます。

ところが、当初は化学農薬の登場ですべてが解決したと思われた害虫防除にもいくつかの問題点が出てきました。とりわけ農薬に対する害虫の抵抗性の発達は、当初は誰も予想すらしなかったと思います。使用している一部の農薬は撒けば撒くほど効き難くなるという悪循環に陥ることで、大きな問題となりました。また、農業生態系(田んぼや果樹園、畑地など)の中には当然害虫以外にも多くの生物が活動しており、過度の殺虫剤散布などでそのような生態系に影響を与えると、かえって害虫だけが増え、



効率的な防除方法とならない場合があることもわかってきました。実はIPM自体も当初抵抗性を回避する有効な手段という意味で提唱された経緯があります。つまり、化学防除だけにたよった防除法では、やがてその方法は破綻する、それを回避するためにIPMを導入しようという、技術的な問題解決方法だったわけです。

では、なぜ最近になってIPMが大きく取り上げられようになったのでしょうか。これにはおそらく技術的な側面と時代の変化によるものと思います。かつてはIPMを実施しようにもそれに応える技術は、ほとんどありませんでした。しかし、今では多数の天敵・微生物農薬や性フェロモン剤、さらに天敵などに加え、それらの天敵に影響のない選択的農薬、また防虫ネットや黄色蛍光灯などの物理的資材、あるいは熱水消毒や耐病性品種など、技術の進歩とともにIPMで使える資材や技術が豊富にそろいつつあります。一方、時代の変化の中で、たとえば「食の安全・安心」志向とIPMという概念は、非常にリンクしやすいと思います。

とはいえ、実際にIPMを実施するのは農家さんです。以前に比べて作物の品質や防除に費やす労力、コストなどがかさむようであれば、IPMの普及は困難になります。

(H・M)

*次回からはIPMが実際に取り入れられている地域の事例や、今後普及するであろう技術について述べることにします。

雑草よもやま話 (4)

雑草は生き抜くための特性として、脱粒性と休眠性を持っています。

脱粒性とは成熟期(収穫期)近くに穂や莢から子実(種子)が落ち易さの程度を示し、休眠性とは熟したばかりの種子が、温度や水の条件が整っても発芽しない性質を示します。一方、栽培イネでは収穫時にも籾が簡単には落ちません。これは収穫時のロスを少なくするために、脱粒性の悪い系統を選抜してきたからです。

また、栽培イネでは栽培管理に不必要な休眠性を持っておりません。このための困った問題として、倒伏して雨が連続と熟した籾が穂についたまま発芽してしまう穂発芽を起します。

ところが最近、岡山県や長野県の乾田直播栽培を連続して行った水田で、脱粒性の強い「雑草イネ」が見つかっております。見つかった雑草イネは草姿、出穂期、稈長、穂長などが栽培種と類似しており、脱粒性は強く収穫前にほとんど籾が落ちてしまいます。雑草イネの休眠性は変異が大きく、栽培種と同様に速やかに発芽するものから遅いものまで混在しているそうです。この



雑草イネが激発すると6～7割の減収になるとのことです。

岡山県農業総合センターの石井先生は、「落ち生え」が多く残るような栽培方法を継続した場合、雑草イネが発生する危険性が高くなり、また、最近話題の赤米や飼料用イネにも脱粒性や休眠性の高いものがあり、直播栽培地帯に導入する場合には、雑草化の可能性を十分検討する必要があると指摘されております。

近年の水稲用除草剤は、イネに対する安全性が高いものが販売されております。従って栽培イネに影響が無く雑草イネだけを枯らす作用を持つ水稲用除草剤は無いと言えるでしょう。それは「雑草イネ」もイネそのものだからです。雑草イネが発生した水田では、直播栽培から移植栽培に切り替えたり、栽培イネの播種期を遅らせ、栽培イネが出芽する前に出芽した雑草イネを非選択性茎葉処理除草剤で防除しているそうです。

(I・K)

群馬大学社会情報学部 青木繁伸様より
(イネの写真) 提供をうけました。

新農業紹介

デラウスプリンスリンバー箱粒剤

(ジクロシメット…3.0%、フィプロニル…1.0%、フラメトピル…4.0%)

今月は水稻育苗箱処理殺虫殺菌剤「デラウスプリンスリンバー箱粒剤」をご紹介します。

本剤は、住化・住武相談室だより第3号でご紹介しました、いもち病及びイネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、ウンカ類、イナゴ類等に有効な長期持続型育苗箱処理殺虫殺菌剤「デラウスプリンス粒剤」に紋枯病に優れた効果を示すリンバー剤を加えた3種混合剤です。

本剤を育苗箱当り50g均一に処理することで、いもち病、紋枯病および主要害虫にも優れた効果を発揮します。

また使用時期は、は種時（覆土前）～移植当日に処理ができます。

【特長】

①水稻の2大病害と主要害虫に優れた効果を発揮します。

水稻の2大病害であるいもち病・紋枯病や主要害虫である、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、ウンカ類、イナゴ類に高い防除効果を示します。

②育苗箱処理で長期間持続し、省力的な防除が可能です。

デラウスもプリンスもリンバーも育苗箱処理で長期間効果が持続しますので、本田での防除回数を減らすことができ、大変省力的です。

③周辺の環境にやさしい薬剤です。

育苗箱処理という処理方法のため、周辺環境への負荷が少ない環境にやさしい薬剤です。紋枯病の例年多発する地域や紋枯病に弱い品種を作付けする地域でのご使用をお勧めいたします。

【は種時処理する際の注意事項】

は種時に処理する場合、高温条件下では薬害を生じる恐れがあるので注意してください。また、湛水状態で育苗する方法（プール育苗等）は、薬害を生じる恐れがあるので避けてください。

(S・R)



化学アグログループ会社紹介

住化タケダ園芸株式会社

今月は、住化タケダ園芸株式会社より新商品のご紹介です。

殺虫殺菌剤 農林水産省登録第21309号

モスピラン・トップジンMスプレー

【特長】

野菜(トマト、きゅうり)・花の虫と病気はおまかせください!

- 野菜や花の害虫と病気を同時に防除します。
- 害虫には接触及び持続効果、病気には予防と治療効果があります。
- 浸透移行性の殺虫成分で、コナジラミなど葉裏にいる害虫にも有効です。

農薬の種類：アセタミプリド・チオファネートメチル水和剤

【性状】：類白色水和性懸濁液体 剤型：スプレー剤

有効成分

アセタミプリド……………0.0050%

チオファネートメチル…0.040%



容量(梱入数)

メーカー希望小売価格・税込

420ml入(10×3) 903円

900ml入(18) 1,323円

[適用病害虫と使用方法]

【2004年10月1日現在の登録内容】

作物名	適用病害虫名	使用時期※	総使用回数※
トマト	シルバーリーフコナジラミ・葉かび病	収穫前日まで	本剤：3回(但し定植後は2回) アセタミプリド：3回(但し定植後は2回) チオファネートメチル：-
きゅうり	アブラムシ類・うどんこ病・炭そ病	収穫前日まで	本剤：4回(但し定植後は3回) アセタミプリド：4回(但し定植後は3回) チオファネートメチル：-
ばら	アブラムシ類・うどんこ病・黒星病	発生初期	本剤：5回(アセタミプリド：5回 チオファネートメチル：5回)
さく	アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ・褐斑病・黒斑病	発生初期	本剤：5回(アセタミプリド：5回 チオファネートメチル：5回)
シンビジウム	炭そ病	発生初期	本剤：5回(アセタミプリド：5回 チオファネートメチル：5回)
プリムラ	アブラムシ類・灰色かび病	発生初期	本剤：5回(アセタミプリド：5回 チオファネートメチル：5回)

なお、使用方法は希釈せずそのまま散布

※印は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

市場情報 NO.2**『カラーピーマン』**

日本エコアグロ(株)
農産商品部 大家 修



最近、各地の生協の共同購入でよく売れている野菜の一つが「カラーピーマン」です。

食卓の彩りだけでなく、食味が良く、従来型の緑色ピーマンに比べ甘味も強いことから、お子さまにも人気がある食材になっています。現在、日本で普通に食べられているようなピーマンは、明治時代にアメリカから導入されたもので、「とうがらし」の改良品種です。「カラーピーマン」はピーマンの薄肉中型種のうち、生育段階や品種によって赤、黄、オレンジ等の果実を収穫するものの総称ですが、海外からの輸入で人気の出た「パプリカ」と混同されていることが多いようです。

「パプリカ」もピーマンの仲間ですが、肉厚大果種のベル系という種類で、果実がほぼ立方体の大型で甘味のある果実（色は緑、赤、黄、オレンジ等）として区別されます。ピーマンの未熟期の果実は緑色ですが、それは緑の色素であるクロロフィル（葉緑素）が多いためです。熟期が進み、太陽の光を浴びることでクロロフィルが分解し、カプサイシンという赤の色素が増加して赤くなります。

ところでピーマンにはカロチンやビタミンCが豊富に含まれていることは知られていますが、近年、赤ピーマンに含まれる「カプサイシン」が栄養学的にも注目されてきました。例えば、その抗酸化作用はトマト等に含まれるリコピンと同程度、βカロチンの1.5倍といわれ、活性酸素を抑制し、肝臓を守る働きがあるといわれています。

当社がこの「カラーピーマン」の販売を手掛けてまだ1年ですが、生協さんからの需要が多く、品不足の状態です。特に夏場（夏秋タイプ）には品薄が続き、時には欠品を起こしてしまうこともあります。

皆様方の産地で“カラーピーマンがあるよ”というところがありましたら、是非ご一報頂ければありがたいと思います。

知って得する防除の仕方

散布はちょっとした工夫が大切！

散布液剤の調製は前回にご紹介しましたが、展着剤は最初に入れて攪拌し、その後に乳剤、水和剤、フロアブル剤の順番で希釈液をつくります。

散布液量や濃度は作物のステージや病害虫の発生密度を考えて調製します。例えば浸透移行性がない保護殺菌剤のダコニール剤は、登録範囲内で薄めの濃度に希釈して散布液をつくり、作物の表面をムラ無く散布します。この場合、ノズルも細かい霧を作るノズルがより効果的です。

次に、花卉やオウトウ等汚れを嫌う作物は細かい霧の出るノズルを使用し、均一に散布液がかかるようにすれば作物の汚れを少なくすることができます。また、同じく弊社のダントツ水溶剤やベストガード水溶剤は、多少の散布ムラがあっても、浸透移行性がありますので薬剤のかかりにくい花の中のアザミウマ類や葉裏のアブラムシにも高い効果を発揮します。

今後は、使用する薬剤の特性を充分把握した上で、作物や病害虫にも考慮して薬液の調製と散布を行ってください。

(T・N)



今月の推進農業

水稲除草剤フロアブル3商品

アピロイーグル・イッテツ・草闘力フロアブル



種初めの準備をしながら、今年の水田除草剤は何にしようかとお考えのことと思います。

ほとんどは、昨年使用した薬剤がよく効いたので、今年も同じものを使おうという方が多いかと思いますが、中には効果に満足できなかった人や、ここ数年同じものを使っているのに、少し新しいもの代えてみたいという方に、弊社の新しい水稲除草剤を今回ご紹介します。

2001年以降の新しい化合物では、ノビエ防除剤の「アニロホス」「オキサジクロメホン」「ピリフタリド」「フェントラザミド」、広葉防除剤として「ベンゾピシクロン」が開発されています。これらの化合物との混合剤が作られています。それぞれの剤は新しい作用性やスルフォニルウレア系（以下：SU）抵抗性のアゼナなどにも有効で従来の薬剤と異なる特長を持っています。

さて、今回は3剤をご紹介します。

はじめに、『アピロイーグルフロアブル』を説明します。

本剤は新しいノビエ剤「ピリフタリド」を加えた混合剤です。効果はノビエ3葉期まで有効です。また、従来の一発処理剤に比べて使用適期幅が更に広くなり大変使いやすい「初・中期一発処理除草剤」です。有効成分は、ピリフタリドに住化武田農薬が独自に開発したイマズスルフロンとホタルイなどのカヤツリグサ科雑草に効果のあるダイムロン、ノビエなどに長期残効を示すカフェンストールを配合し、手振り散布のできるフロアブル剤です。

次に『イッテツフロアブル』を紹介します。

本剤は、イマズスルフロンとカフェンストールに新しい広葉剤の「ベンゾビシクロン」を配合してSU抵抗性雑草やホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・セリ等の多年生雑草やアシカキ・イボクサ・エゾノサヤヌカグサにも高い効果を発揮します。これも、使いやすい初・中期一発処理除草剤です。

最後に、「草闘力ふるあぶる」です。有効成分はプロモブチド・ペントキサゾン・ベンゾフェナップが配合されています。本剤はSU剤を含まない薬剤ですので、SU抵抗性雑草のミズアオイ・ホタルイ・アゼナ類に卓効を示します。ノビエ1.5葉期に処理する初期一発型処理剤です。

昨年の雑草発生状況や使い勝手などを含めて、今年は弊社水稻除草剤を是非ご使用頂くことをお勧めいたします。

(T・N)



アメリカアゼナ

今月の相談内容から

アスパラガス（ハウス内）の雑草防除にクレマート乳剤はどうですか？

雪融け後、ハウスにビニールをかける前に、土壌処理除草剤クレマート乳剤をアスパラガスの萌芽前に使用してもいいですか、と云うお問い合わせがありました。

その回答として、クレマート乳剤は雑草の幼芽部より吸収され、細胞分裂を阻害して発芽を抑制します。そのため雑草発生前に全面土壌散布します。効果は散布後30日～45日間ぐらい抑草します。また、ガス化はしませんので、散布後ハウスにビニールをかけても薬害の心配はありません。



タマネギ畑の雑草防除にセレクト乳剤を2度使用したいが大丈夫ですか？



一度、タマネギに「セレクト乳剤」を使用したのですが、また雑草が生えてきたので再度散布したいのですがというお問合せがありました。

セレクト乳剤はスズメノカタビラ含むイネ科雑草（植物）のみ効果がある茎葉処理除草剤です。因みに、イネ科植物以外には効果ありません。

さて、タマネギは収穫40日前までに3回まで使用できますので、再度ご使用頂くことは問題ありません。また、イネ科作物では稲・麦・トウモロコシおよびイネ科牧草には薬害の恐れがありますので散布時の飛散には注意してご使用ください。
(T・N)

病害虫発生情報

3月に出された病害虫発生予察注意報・特殊報をお知らせします

トマト・ミニトマト

トマト黄化葉巻病：香川県、鹿児島県／主にシルバーリーフコナジラミにより媒介されるウイルス病です。この害虫を定植時のダントツ粒剤、生育期のダントツ水溶剤、ベストガード水溶剤、スミロディー乳剤などにより防除することが重要です。



黄化葉巻病

きゅうり

褐斑病：茨城県／褐斑病は糸状菌（かび）による病気で、病斑が新たな伝染源となりますので、発病部などは取り除きハウス外に持ち出して処分してください。多湿条件で蔓延が速いので、十分な換気をするように心がけてください。その上で、ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤、ダコニール1000により防除を行ってください。

黄化えそ病：宮崎県／黄化えそ病はウイルスによる病害で、ミナミキイロアザミウマにより媒介されます。定植時にダントツ粒剤又はベストガード粒剤、生育期に、ダントツ又はベストガード水溶剤、アグロスリン乳剤・水和剤などにより、ミナミキイロアザミウマの防除を徹底する必要があります。

なす・トマト他

シルバーリーフコナジラミ：高知県／ダントツ粒剤・水溶剤、ベストガード水溶剤などの薬剤で防除が可能です。

きゅうり・トマト・なす他

灰色かび病・菌核病：鹿児島県／ベンレート水和剤、ゲッター水和剤などを使用した早めの防除をお勧めします。

いちご

ハダニ類：佐賀県、斑点細菌病：愛媛県／ハダニ類は、下葉の裏に多く分布するので、薬液が十分にかかるように不要な下葉を除き、丁寧に薬剤散布することが必要です。防除薬剤は、オサダン、ロディーの他、くん煙剤のスカイマイト、ロディーがあります。

斑点細菌病は、雨滴による感染が考えられるので、雨除け対策を行い、野菜類に登録のある銅剤で予防に努めてください。

たまねぎ

べと病：佐賀県／多湿条件で発生するので、圃場の排水対策を徹底し、降雨後発生が見られたら早急に防除することが必要です。防除薬剤としては、ダコニール1000、クリーンヒッターなどがお勧めです。



なす灰色かび病

(I・T)

登録情報

以下の剤が適用拡大されました。

◎アピロイーグルフロアブル（3月9日付）

★直播水稻に適用拡大 イネ 1.0 葉期（北海道・東北・北陸はイネ 1.5 葉期）からノビエ 3 葉期まで使用可。

◎バリダシン液剤5（3月30日付）

★非結球レタスに適用拡大 すそ枯病、腐敗病、軟腐病／800 倍／収穫 7 日前まで／3 回以内／散布

★すももに適用拡大

黒斑病／500 倍／収穫 1 4 日前まで／4 回以内／散布

◎スミレックスくん煙顆粒（3月30日付）

★オクラとししとうに適用拡大 灰色かび病／温室、ビニールハウス等密閉できる場所／くん煙室容積 100 m³（床面積 50 m²×高さ 2 m）当り 6 g／通常 10～15 時間／収穫前日まで／5 回以内／くん煙

★きゅうりのプロシミドン総使用回数変更 「6 回以内」を「6 回以内（常温煙霧は 2 回以内、散布及びくん煙は合計 6 回以内）」に変更

◎クレマートU粒剤（3月30日付）

★くわいに適用拡大 一年草雑草／植付直後／砂壤土～埴土／5 kg/10a／1 回／全面湛水散布／全域

(I・T、S・H)

コラム・そば談義

近頃、そば屋さんの前に立つと、どんな「おそば」が出てくるのか何となく分かるような気がする。

それは、立派な店構えや内装に贅を尽くした店では勿論ない。うまく云えないが、俗にいう「感じのいい店」である。前を通ると、何となく暖簾を潜ってみたいと思う店である。中から、明るい声で「いらっしゃい！」と聞こえてくるような店でもある。

さて、気のおけない相談室仲間と日本橋にある「越前おろしそば」を掲げる店に入った。店主の話では3年程前に奥さんを亡くし、その時に思い切ってサラリーマンに終止符を打ち、地元の福井でそばの修行を半年した後、一念発起して東京に出て、日本橋にいきなり店を開いたとのこと。

その訳は、本当に美味しい食材や料理が福井にあるのに、東京での知名度がゼロに等しいと感じたからだそうです。そこで、

いつも地元で食べているものを東京の人に出して福井の料理を認知してもらおうとの一念で、これと思う食材を厳選し、そこに辛味大根の「おろしそば」を添えて出すことにしたそうです。

また、奥さんを亡くして、これからの人生寂しく後ろ向きに生きていけなくなかったという言葉も印象に残る。子供さん達も東京に店を出す時、大変応援をしてくれたそうである。そんな会話を交わしながら出された「おろしそば」は、美味しい酒の肴とお酒が程よく回り、辛味大根のピリッとした味がよく利いて、心が充分満たされる思いであった。

そして店を出て、少々酩酊した頭で『我が相談室も人の情がわかる味のある受け答えが出来ればいいな・・・』と、思いつつふらふらと日本橋をあとにした。

(F・N)

[編集後記]

今、東京の桜は満開です。しかし、本紙を発行するころは、桜もちらほらと散り始めている頃でしょうか。

今年は、例年になく厳しい冬でしたが、やはり季節は確実に巡ってきました。しかし、春は色々と悩みの多い時候でもあり同時に、希望に満ちたスタートの季節でもあります。通勤電車で新入社員の若々しい姿が眩しく、また何だか懐かしくもあります。

さて、相談室に掛かってくる電話も、今月になりうなぎ登りに増えたような気がします。これからが、春本番です。それと同時に農作業も農繁期を迎え、私共もこれからが気が引き締まる思いです。

表紙の挿絵「椿にひよどり」 技術顧問 富樫氏作